

いい。『すべてのスタッフは子どもに一貫した対応をするべき』と言う人もいますが、世の中の人たちがすべて同じ反応をするわけはないから、いろいろな受け止め方ができる方が豊かに育つと思うのです。多様なものを認めることは、自分と同じでなくてもOKということ。私が私であつていいのと同じように(I am OK)、あなたもあなたであつていい(You are OK)。お互いに認め合わないと(We are all OK)エンパワメントされないのです」

スタッフTシャツに書かれた言葉は、ふらつとという場そのものだ。実は「お茶を飲みに来ませんか」という誘いにも自分の力を発見するための仕掛けがあつた。

「ふらつとに来たときは、大人も子どもも、自分の欲しいものは欲しいと言つていいし、嫌なもの嫌と言つていい。でも、それがわからない人は多いのです。だから、お茶、レモネード、ココアなど、たくさんメニューを

用意して、自分の好きなものを選んでもらいます。そんな些細なことからも、エンパワメントは大事だと思います。他の場所で行動するかは別として、ふらつとは自分らしくいる訓練の場でもあります」

2013年には、ふらつとから徒歩数分の金剛団地の1室に、ふらつとの会員なら誰でも利用できるシェアルームを開設。風呂、トイレ、台所など、暮らしに必要な設備はそろっている。ので宿泊も可能だ。分譲団地の区分所有者から相場の家賃で借り、寺子屋や講座などの活動に利用するほか、玄関横の和室は、利用者の様々な相談にも使われている。

ふらつとの活動が地域に見えていたからこそ、このシェアルームも団地の住人から受け入れられた。誰でも受け止めるふらつとの包容力は、地域のエンパワメントにもつながっていく。

(構成・編集部)